



大切にしよう! ふるさとの山と田んぼ

〔山田としおホームページ〕 <http://www.yamada-toshio.jp/>
〔山田としおメールマガジン〕 会員募集中! (ホームページからお申し込みを)



もんでん英慈さんと兵庫県内の酪農家を視察(4月9日)



富山県の青壮年部員らと懇談(2月16日)



農林水産委員会で畜産酪農対策について質問(2月19日)



鹿児島県内の肥育農家を視察(2月5日)



予算委員会で質問(3月9日)



JA全国青年大会であいさつ(2月16日)



もんでん英慈を国政に送る会に出席(4月1日)



JAちばみどり(千葉)で意見交換(3月30日)



JA全国女性大会であいさつ(1月25日)

国政を志す現場の農業者、もんでん英慈の決意

山田としお後援会の会員の皆さま、私は、「もんでん英慈」と申します。宮城県の農家に生を受けて以来、農業に携わっており、平成12年度から13年度まで宮城県農協青年連盟委員長を、14年度に全国農協青年組織協議会会長を務めました。私は、現場で農業に携わりながら、心にわき上がる思いがありました。これまでは、農業者の声は、代弁してもらわなければ、国政に届けることはできませんでした。しかし、今こそ、若い農業者が立ち上がり、自分たちの発言や行動によって、この日本を、疲弊した農業や農山漁村を、再生しなければならぬ時なのです。現在、農業をとりまく環境は激変し、風当たりが強くなっている中、国政の場において、農業者の立場で発言する者が減っているという危機に

あります。私は、農業者の代表として、現場の声を国政に届け、山田俊男議員の弟分として、その力になり、共に闘いたいのです。どうぞ、私の政治活動に、皆さま方のあたたかいご理解を頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。平成22年5月吉日



もんでん 英慈

参議院予算・農林水産 決算委員会の質疑応答要旨

〔山田俊男委員〕「いのちを守る政治」を標榜する鳩山内閣は事業仕分けで、子どもたちの「いのちの学習」を支援する牧場・乳業ふれあい支援事業を22年度予算から廃止した。これでのちを守る予算を作ったことになるのか。

〔赤松農林水産大臣〕事業の必要性についてはだれも否定していないが、結果的には、廃止という重点化することになった。

〔山田委員〕農業農村整備事業の大幅削減についても「いのち」にかかわる話。ため池の補修の予算はほとんどゼロ近くまで削減された。耐用年数を超えた水利施設の補修費も60%ほどしか準備できていない。

〔赤松大臣〕限られた予算の中では、農業の再生産に必要な事業を重点化せざるを得ない。

〔山田委員〕概算要求で農水省は、農業農村整備事業に488.9億円が必要と試算していた。それを半額以下にしたのは、「選挙で言うことを聞かないから懲らしめてやる」ということか。

〔菅財務大臣〕戸別所得補償がマニフェストの大きなテーマだった。

〔山田委員〕戸別所得補償の予算措置により、農林水産予算が大幅に増えたと勘違いされている。実は総額で、前年度の当初予算に比べて1000億円も下回るものになっている。このことを本当によく考えてもらいたい。

〔赤松大臣〕戸別所得補償がマニフェストの大きなテーマだった。

〔山田委員〕担い手のイメージは一体どのようなものなのか。基本計画は、多様な意欲のあるすべての農業者を対象に、それが生きていける政策を打つと書いている。一方、競争力のある経営体をつくり、地域農業の担い手として効率的な経営、安定した農業経営を確保するとしている。2つの原理が基本計画の中に含まれており、いいとこ取りだ。

〔赤松大臣〕多様な農業としてしっかりと支えていこうという考えか。

〔山田委員〕認定農業者の生産調整の目標達成要件を外した。米の過剰生産につながり米価の低落を引き起こしかねない。

(3月9日 予算委員会)

〔郡司農林水産副大臣〕柔軟に対応したい。

〔山田委員〕今回の基本計画の中には、農業団体について、木を見て森を見ない感情的な記述がある。地域社会の中には、協同活動を重視する雰囲気がある。

〔山田委員〕備蓄についても十分配慮して弾力的な運営を考えないと大混乱に陥る。

〔山田委員〕内閣府の行政刷新会議が「規制・制度改革に関する分科会」を設けた。前政権の規制改革会議から8人が選ばれている。委員には市場原理を主張する人が多い。農業ワーキンググループには選ばれたメンバーには、極めて思い付きで乱暴な提案をして、誤解、曲解に基づく批判を展開する人もいる。

〔大塚副大臣〕35人でうち9人が人事異動等で入れ替わった。民間からの出向者が多い。

〔山田委員〕政治主導とは名ばかりで官僚主導の規制制度改革になっていないのか。

〔赤松大臣〕山田委員の方を向いて実際は大塚副大臣の方に言っているが、事務局体制については考えた方がいい。委員の会社から出向し何年か後に戻る人が会社の利に反することができないわけがない。

〔山田委員〕2012(平成24)年は国連国際協同組合年。世界の協同組合運動のベースにあるのは独禁法の適用についての除外だ。世界の潮流に逆行しても、この問題をやるのか。

〔大塚副大臣〕国際的な動きも踏まえて平仄(ひょうそく)の取れた形にしたい。

(4月26日 決算委員会)